秋田魁新報　2024年03月04日付　県北

能代松陽高生

統計データ扱い方学ぶ

県信用組合が授業

秋田県信用組合能代支店は、能代市の能代松陽高校でビッグデータを活用した政府の地域経済分析システム（リーサス）の活用方法に関する授業を行った。情報ビジネス課の1年50人が、統計データの扱い方や分析方法を学んだ。

授業は「ビジネス基礎」の一環として2月7日に実施。東北経済産業局（仙台市）に出向し、リーサスの普及調査員を務めた経験のある大沢克支店長(47)らが講師を務めた。生徒はリーサスを使って本県の人口の推移や、能代市内の人の流れなどを確認し地域の特徴を分析した。

能代カップ高校選抜バスケットボール大会が開かれる5月に能代市内で目的地検索されている施設を調べると、大会会場である能代市総合体育館と市内の宿泊施設の検索数が多かった。大沢支店長は「多くの人が泊まりがけで観戦に訪れているという仮説が立てられる」と説明。「データだけではなく、自らの経験や肌感覚で仮説を検証していくことが重要」と語った。

このほか、企業の業務改善などを支援するマネジメントオフィス檜（秋田市）の吉野智人代表(36)が、効果的な情報発信の方法やコミュニケーションの取り方について講演した。

（加藤龍太郎）

統計データを活用し、地域を分析した県信用組合の授業

©秋田魁新報社